

2022 年度『学会賞』選考結果

学会賞選考委員会委員長
安形麻理

三田図書館・情報学会賞は、会誌である Library and Information Science に掲載された優れた論文に与えられる賞です。本年度は、85号、86号、87号に掲載された原著論文6編を対象に選考を行いました。例年と異なり上記の3号を対象としているのは85号の刊行の遅れによるものです。研究手法の新規性や妥当性、新たな研究領域の開拓などの点で他にも授賞候補となる論文がありましたが、さまざまな観点から厳正な審査を行った結果、以下の論文を学会賞として選考いたしました。

岩瀬梓. 大学生の学習における情報メディアに対する意味付け：選択の判断プロセスに着目して. Library and Information Science. 2021, no. 85, p. 1-22.

[授賞理由]

本論文は、大学生が学習における情報行動の中で情報メディアを選択する場面に着目し、半構造化インタビューに基づき、情報メディア選択のための判断プロセスと判断基準を明らかにしたものである。大学一年生18名を対象に、レポート課題と試験勉強における情報メディア選択の具体的な体験に関するインタビュー調査を行っている。分析からは、第一に教員の指示に反していないものであるかが判断され、第二にその情報メディアの信頼性が判断されるという共通プロセスが提示され、大学生の社会的文脈と情報メディアの選択との関係性が議論されている。インタビューの結果と分析が丁寧に行われ、質的調査を報告した論文として高く評価できる。

また、本論文は、情報行動を「情報メディア」という概念を導入してとらえ直すことで新たな視座を提供することを目指している。これまで認知的側面もしくは社会的側面のどちらかからとらえることが定石とされてきた情報行動を、二つの側面を同時に扱いながら解釈できるものとして示すことを試みているという点で、意欲的な研究であるといえよう。

他方、共通プロセスが提示されるもののインタビュー対象者それぞれの体験の独自性については記載がない点や、本研究の成果を情報行動という大きな研究領域においてどのように位置付けるかについての議論が不十分である点には物足りなさを感じられる。しかしながら、こうした点は本論文の意義を大きく損なうものではなく、今後のさらなる展開への期待も込めて、学会賞に値すると判断した。